

この照査項目選択時における入力項目一覧を表 4. 2. 14(2) に示します。

表 4. 2. 14(2) 復旧性【変形】の入力項目 [CFT]

項目名	記号	単位	初期値	入力範囲等	
応答値	設計軸方向力	N'd	kN	—	$ X \leq 10000000.00$
	設計応答部材角 ^{※1} (設計応答曲率)	θd (ϕd)	rad (1/m)	—	$ X \leq 100.00000$
変形性能 算定用 データ	骨格曲線の種類	—	—	—	M- θ , M- ϕ , M- ϕ パネ
	鋼管の伸出しの考慮 ^{※2}	—	—	—	あり, なし
	せん断変形の考慮 ^{※3}	—	—	なし	あり, なし
	せん断スパン ^{※4}	a	mm	—	$0.0 < X \leq 100000$
	材端ばね分担長 ^{※5}	L1	mm	—	$0.0 < X \leq 100000$
	材端ばね分担長 ^{※5}	L2	mm	—	$0.0 < X \leq 100000$
	端部の埋込み方式 ^{※6} 端部埋込み長 ^{※6}	— L0	— mm	—	ソケット方式, 埋込み方式 $0.0 < X \leq 100000$
安全係数	部材係数(損傷レベル 1)	γb	—	1.0	$1.00 \leq X \leq 10$
	部材係数(損傷レベル 2)	γb	—	1.0	$1.00 \leq X \leq 10$
	部材係数(損傷レベル 3)	γb	—	1.0	$1.00 \leq X \leq 10$
	部材係数(δmpd , δnpd 用)	γb	—	1.1	$1.00 \leq X \leq 10$
摘要	—	—	—	—	全角 10 文字以内

※1 骨格曲線の種類を「M- θ 」および「M- ϕ パネ」とした場合、設計応答部材角 θd 、「M- ϕ 」とした場合、設計応答曲率 ϕd を入力します。

※2 「なし」を選択した場合、直下の「端部の埋込み方式」および「端部埋込み長」は入力不要です。

※3 矩形 CFT において骨格曲線の種類を「M- θ 」とした場合に有効な入力項目です。「あり」を選択した場合、【鋼・複合標準 第Ⅱ編 解説表 1.3.7 脚注】に準じ、鋼管ウェブのせん断変形による部材角を考慮します。この際の鋼管のポアソン比は、0.3を適用します。

※4 骨格曲線の種類を「M- θ 」とした場合に有効な項目です。

※5 骨格曲線の種類を「M- ϕ パネ」とした場合に有効な項目です。

鋼管の伸出しの考慮がある場合は L1 を、ない場合は L1 および L2 を入力します。

※6 鋼管の伸出しを考慮する場合に有効な項目です。矩形 CFT の場合は、「埋込み方式」固定です。

※ 骨格曲線の種類が「M- θ 」以外で、かつ、鋼管の伸出しを考慮しない場合、【複合標準 付属資料 9】に従い、【複合標準 第Ⅲ編 (解 2.3.23)】式中の鋼管の設計降伏強度 (f_{syd}) は、 $0.19f_{syd}$ を適用します。

この照査項目選択時における入力項目一覧を表 4. 2. 14(3) に示します。

表 4. 2. 14(3) 復旧性【変形】の入力項目[鉄筋差込み方式]

項目名		記号	単位	初期値	入力範囲等
応答値	設計軸方向力	$N'd$	kN	—	$ X \leq 10000000.00$
	設計応答部材角	θd	rad	—	$ X \leq 100.00000$
変形性能 算定用 データ	骨格曲線の種類	—	—	—	「M- θ 」固定
	鉄筋の伸出しの考慮	—	—	—	「あり」固定
	帯鉄筋強度係数	$kw1$	—	1.00	$0.00 < X \leq 10$
	引張鉄筋の直径 ^{※1}	ϕ	mm	—	$0.0 < X \leq 1000$
	引張鉄筋中心間隔	Cs	mm	—	$0.0 < X \leq 10000$
	引張鉄筋の配置段数 ^{※2}	Ns	—	—	1~3
	複数段配置における段間隔 ^{※3}	$Cs2$	mm	—	$0.0 < X \leq 10000$
	定着部の コンクリート設計圧縮強度 ^{※4}	$f'cd$	N/mm ²	—	$0.00 < X \leq 10000$
安全係数	部材係数(損傷レベル1)	γb	—	1.0	$1.00 \leq X \leq 10$
	部材係数(損傷レベル2)	γb	—	1.0	$1.00 \leq X \leq 10$
	部材係数(損傷レベル3)	γb	—	1.0	$1.00 \leq X \leq 10$
摘要		—	—		全角 10 文字以内

※ 骨格曲線における曲げモーメント M_y , M_m , M_n は、【複合標準 第三編 2.3】に従い、鋼管による拘束効果を考慮して算定します。なお、この際の【複合標準 第三編 (解 2.3.22)】式中のコンクリートの圧縮強度の特性値 f'_{ck} は、3.2 で設定したコンクリートの材料特性値を適用します。

※1 空欄にすると、最外縁の引張鉄筋の直径を適用します。任意入力も可能です。

※2 空欄にすると、設定した断面の引張鉄筋の配置段数を適用します。任意入力も可能です。

※3 複数段配置の影響を考慮する場合に入力します。

※4 ここで入力する値は、【複合標準 付属資料 15】および【杭体設計の手引き(第2版)】に示される伸出し量 (θ_y , θ_{m1}) 算定時に適用されるものであり、 ΔL_y の分母のコンクリートの設計圧縮強度に、入力した値を用いて算定します。入力する値については、【杭体設計の手引き(第2版)】を参照ください。